

## 大腸癌研究会プロジェクト研究

### 「腹腔鏡下直腸癌手術に関する研究」議事録

2011年1月20日(木) 14:00-16:00 アクロス福岡 6F 「608」

#### 1. 各プロジェクト報告

##### (1) 「Clinical Stage0-I 直腸癌に対する腹腔鏡下手術の妥当性に関する第II相試験」

###### ・進捗

CRFは1例除きすべて回収された。

術中写真の回収が遅れている。

追跡調査を引き続き行う

###### ・論文化

短期成績：国立がん研究センター中央病院

長期予後：国立がん研究センター東病院

その他の論文課題については登録症例数の多い施設から順に選択権を有する。

1課題につき国内外で学会発表も行う。

発表しない施設も最低一回は何らかの発表に施設代表者の名前が掲載されるよう配慮する。

##### (2) 「Stage IV 大腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義」

京都大学の肥田より904例の解析結果につき報告あり。腹腔鏡下手術は開腹手術より短期成績は良好で、長期予後も良い傾向を示したことを論文化し投稿した。

##### (3) 「高齢者における腹腔鏡下大腸切除術の有効性と安全性に関する後向き調査」

広島大学の檜井より登録症例数2330例の内訳が報告された。短期成績は腹腔鏡下手術の方が開腹手術より良好であり、Stage IIIでは腹腔鏡下手術群が開腹手術群に比し予後良好であった。今後詳細に検討し次回の会議までに詳細な解析を行うこととなった。

##### (4) 横行結腸癌、下行結腸癌のretrospectiveな検討

埼玉医科大学の田代より前回合意された研究計画が埼玉医科大学と大腸癌研究会の倫理委員会の承認を得て本年より開始することが報告された。

##### (5) 腹腔鏡下ISR症例のretrospectiveな検討

国立がん研究センター東病院の伊藤より作成中の研究計画について報告があった。

#### 2. 新規プロジェクト研究について

大阪医科大学の奥田より「単孔式手術の妥当性に関する研究」の提案があった。現在のところ本術式は各施設の症例数が少ないので、それに特化した研究は今回見送ることとした。適応や安全性などが単孔式手術の研究会などで検討された後、その結果を踏まえ本研究会でも扱うか否かについて再度話し合うこととした。

以上